

2025 年度「応用ゼミナール」ミニシラバス (国際理解学科)

担当者名	生田 祐子
授業のテーマ	英語で学ぶグローバルイシュー(紛争・難民・平和維持)
授業の内容	この授業では、映画を通じて世界の現状を学び、問題解決に向けた考えを英語で表現する力を養います。国連の活動や国際協力の現場が描かれている映画リストから興味のある作品を選び、その社会的・国際的な背景や意義を考察し、自分の意見を日本語と平易な英語で発表することが主な課題です。希望者には、東京にある国際機関や NGO を訪問し、インターンシップに参加する機会も提供します。授業を通じて、国際社会で働く関心を高め、そのための基礎力を身につけることを目指します。
サブテキストなど	授業内で資料を配布します。映画は図書館と Language Garden で視聴可能です。
お勧め対象	実践的な英語力を身につけたい学生や、国際協力や教育分野(英語・社会・日本語教師)に関心のある学生に特におすすめです。ニューヨーク国連研修参加を目指している学生にも役立つ内容です。

担当者名	久保庭 慧
授業のテーマ	世界遺産から見える「世界」と「社会」
授業の内容	皆さんの中には、世界遺産の映像や写真を見たり、実際に世界遺産を訪れたりしたことのある人は多いのではないかと思います。他方で、世界遺産は見て・訪れて楽しいだけのものではなく、社会を映す鏡でもあり、世界遺産を通すと実に色々なものが見えてきます。このゼミでは、世界遺産について書かれた基本的かつ比較的読み易い本(新書)を全員で読み進め、そこから見えてくる様々な問題を皆で議論し、世界遺産の華やかな側面だけでなく、負の側面にも光を当て、そこから見えてくる社会の様相を眺めてみたいと思います。その上で、ゼミの後半では、実際の世界遺産候補となる物件を題材に、世界遺産登録の可否を全員で決定する模擬世界遺産委員会を行います。意欲ある方の参加をお待ちしています。
サブテキストなど	ゼミ内で適宜指示します。
お勧め対象	<ul style="list-style-type: none"> ・世界遺産の話題に限らず、皆で議論したり対話したりするのが好きな方。 ・「文化」や「世界遺産」といったものを通じて社会を眺めてみたい方。 ・単純に世界遺産に関心があって、もっと深く勉強してみたい方。

担当者名	佐々木 優
授業のテーマ	ソーシャルビジネスを通じて社会課題を考える
授業の内容	<p>現代社会が抱える課題を「経済×ビジネス」の視点から学び、その解決策を考えます。授業の前半では、SDGs のゴールを確認した上で、ソーシャルビジネスに関する文献を読み、社会的な課題について学びます。</p> <p>後半では、特定の社会課題を議論し、その解決策になるようなビジネスプランをグループで検討・発表してもらいます。なお、ビジネスプランの発表では、実際にソーシャルビジネスを実践している企業の方に参加いただき、意見交換してもらう予定です（企業の方の参加については調整中）。</p>
サブテキストなど	関連する文献は授業の中で紹介します。また、ゼミで活用する文献は使用する部分のコピーを教員が用意する予定です。
お勧め対象	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会が抱える課題やソーシャルビジネスについて強い興味・関心がある方 ・途上国開発や国際協力、農民の貧困や食料危機、食品ロスにとっても関心がある方 ・グループワーク／ディスカッションやプレゼンテーションのスキルを向上させたい（もしくは抵抗がない）方 ・開発分野もしくは社会貢献に携わる企業との交流に興味のある方

担当者名	丸山鋼二
授業のテーマ	地図で世界を旅し世界を知る
授業の内容	<p>どこかに旅行に行ってみると、行く前には考えもしなかった発見がいくつも生まれることはよくあります。その地の地形や自然の景観（時には自然災害や環境問題）はもちろん、住んでいる人たちの生活のこととか仕事（経済・産業）、さらには神社仏閣・教会などの宗教施設、おそらくそれと強く結びついている祭りといった年間行事とその由来・歴史、もっと一般的には文化・社会などに関心が非常に広がります。これを「地域研究」と言っています。あなたは世界のどこから旅を始めますか？</p>
サブテキストなど	適時指示します。
お勧め対象	頭の中で世界を旅してみたい人。世界について関心がある人。

担当者名	本浜 秀彦
授業のテーマ	「英米か!」「米英か!」の、日本の近現代の社会・文化史
授業の内容	蘭学を学んでいた旧一万円札の肖像の人物は、幕末に開港した横浜で、多くの外国人が英語を使っていたのを知り、慌てて英語習得に力を入れたそう。これは近代以降の日本が、今日に至るまで、英語という外国語を意識せざるを得ない現実を象徴しています。本ゼミでは、英国、敗戦後は米国という「英語の国」に大きな影響を受けてきた日本の社会・文化の変遷を、日本や米英の大学事情とも関連させて学びます(英単語も覚えますよ!)
サブテキストなど	教場で指示します。
お勧め対象	日本の近現代の歴史や、社会・文化に関心のある学生。英語圏への留学を考えている学生。お勧めできないのは、英語を勉強することは嫌いだ、億劫だという学生。

担当者名	渡邊 暁子
授業のテーマ	開発人類学を学ぶ:ジェンダーと教育を中心に
授業の内容	<p>今日、国際協力をはじめとする国内外の「支援」の現場において、人類学的視点や実践がこれまで以上に求められています。そこで、本演習では、社会開発に関わる現象、特にジェンダーと教育をめぐる文化人類学の立場から検討し、地域の文脈において適切な開発の実践に向けて提案する開発人類学について学びます。</p> <p>本演習の前半では、履修者複数名が既存の開発人類学に係る文献を紹介し、議論やワークをリードしていきます。後半では、映像を観た後、国内外をベースにした開発プロジェクトについて、実際にグループで考案・検討し、発表していきます。</p>
サブテキストなど	授業内で参考資料を提供します。
お勧め対象	<ul style="list-style-type: none"> ・国際協力、地域研究、開発や福祉、社会の仕組みなどに関心のある学生 ・周囲と協力して物事を進めていく意思のある学生 ・ディスカッションをファシリテートする力や語る力を培いたい学生 ・資料収集をしたり、検討、分析、考察する力を深めたい学生